



学校だより「あ・は・も」

～「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」が自慢の塩川小学校～

平成 30 年 1 月 9 日発行 No.34

文責 塩川小学校長 佐藤 寅記



感謝と希望の三学期 ～さらなる飛躍の年に！～

5 2 日ある三学期の 1 日目、その始業式で、こんな話をしました。

「3 学期には、2 つの意味があります。一つは、今の学年で身に付けなければならないことをしっかりと身に付け、学年のまとめをする大切な学期です。二つ目は、次年度に向け、一つ多くなる学年で、しっかり学習・生活していくための準備の学期でもあります。今の学年のまとめと、新しい学年の準備をしっかりと行ってください。」

そこで三学期は、「感謝」と「希望」の 2 つの言葉を大切に過ごしてほしいと思います。

人は、必ず誰かに支えられたり助けられたりして生きています。ですから、何事にも感謝の気持ちを持って生活して欲しいと思います。その時その時に、「〇〇さん、ありがとう。」の感謝の言葉を口に出して言いましょう。また、自分はどうなりたいという夢や希望は、自分を高める原動力となります。今の自分を常に振り返って夢や希望を持ち、それを意識して生活しましょう。」

今年の干支、戌年にちなんで、「よく聞くこと」（犬の特長は耳もよいこと）についても、特に意識して三学期を過ごしてほしいと思います。

平成 30 年も、子ども達にとって、さらなる飛躍の年となることを願います。どうぞ本年も本校教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



三学期は、あいさつと発表をがんばります。

為すことによって学ぶ ～活動して感じ、考え、自ら行動を変える～

人は、感じ方や考え方などの内面（資質・能力）が育つことで、社会的な人間へと成長します。聞くより見る、見るより“やってみる”ことが大切です。それも、言われてやるより、自らやってみる方がより効果的です。そのためには、夢や希望を持つことが必要です。

夢のある者には希望があります。希望のある者には目標があります。目標のある者には計画があります。計画のある者には努力と行動があります。努力と行動ある者には進歩があります。そして進歩のある者には夢があります。

「あ・は・も」の「も」（目標）の前提には、夢や希望が必要です。また、目標達成のためには、具体的な活動や経験が必要です。本校では、聞いて憶えさせる学習（記憶中心）ではなく、子どもが活動することで、感じたり考えたり学習を充実させる教育を施してまいります。

プライド教育 ～自分に、学校にリスペクト！

「他人のものさし 自分のものさし それぞれ寸法がちがうんだな」

これは、相田みつをさんの言葉です。この言葉のように、人は得意なところやよいところは人それぞれです。他人の尺度で自分を比べると自信をなくしてしまいがちですが、自分のよいところや得意なところに目を向けられるようになると、自信を高め何事にも挑戦できるようになります。

本校では、自分の尺度で自分を正しく見つめることを通して自信を高める教育を大切にしています。それを「プライド教育」（自己肯定感や自己効力感、自己有用感等を高める教育）という言葉で実践し、具現していきたいと考えて指導しています。

真の自尊心は、自分が必死に努力をして何かを成し遂げるような経験がないと、それを抱くのは難しいように思います。自分が時間をかけて、目標を達成、もしくはそれに近づく経験をしてはじめて、自己の価値や存在意義が深くわかってくるのだと思います。

そんな経験も大切にしながら、自分を誇れる子どもに高めていきたいと思っています。



学校に子ども達が帰ってきました。